

コーティング肥料と海洋マイクロプラスチック問題への取り組みについてもう一度整理しましょう。

今号では、千代田化成と直接の関係はありませんが、肥料業界で大きな問題となっているコーティング肥料と海洋マイクロプラスチック問題について、改めて近年の事象を整理し記載したいと思います。

マイクロプラスチック問題とは



海岸で見つかったコーティング肥料の殻
肥料殻もマイクロプラスチックにあたる。

《マイクロプラスチック(MP)の定義》

直径 5 mm 未満のプラスチック粒子または、プラスチック断片。その小ささ故に回収が難しく、解決が困難な問題。

《海洋MPに関し指摘されている問題点》

- ・海洋生物（魚類、海洋哺乳類、海鳥など）の生命を脅かす。
- ・生態系への影響による、生物多様性や環境保全機能の損失。
- ・プラスチックごみによる景観の悪化。（観光業への悪影響）
- ・プラスチックの成分を取り込んだ魚・貝を摂取することによる人体への長期的な影響。

環境団体や大学研究、マスコミがコーティング肥料殻を問題視

- ・四日市大学環境情報学部はこの問題に早くから着目し調査を行っている。
- ・(株)ピリカはこの問題で2021年「環境スタートアップ大臣賞」を受賞するなど注目を集めている。
- ・2019年から山陽新聞(岡山県)はこの問題を再注目し批判を強め、以降何度も記事にしている。
- ・2021年5月 NHKおはよう日本でこの問題をクローズアップ。

我が国のプラスチック資源循環に関する目標・計画の流れ

2015年9月

SDGs（持続可能な開発目標）が国連サミットで採択された。これを背景に、国内においてプラスチック循環の議論活発化。（SDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」）

2019年5月

環境省及び他省庁連名で「プラスチック資源循環戦略」及び「海洋プラスチック対策アクションプラン」が策定され、2021年1月同戦略に基づきバイオプラスチックの導入に向けた「バイオプラスチック導入ロードマップ」が策定された。

2021年6月

「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」が第204回通常国会において成立(6月4日公布)制定の際、参議院環境委員会付帯決議でコーティング肥料も下記の対応を求める決議がなされた(努力目標)。

①流出状況の把握、②流出量の削減及び回収のため、報告体制の整備に必要な措置を行う。③自然循環する生分解性素材による海洋環境悪影響を最大限軽減できる代替製品の研究開発に努めること等が盛り込まれた。

2022年3月

「国連環境総会でプラごみに関し、2024年以内に法的拘束力のある国際条約を作る方針」の新聞報道。

2021年6月3日 第204回通常国会参議院環境委員会「プラスチック肥料殻」の質疑内容(抜粋)

徳永エリ(民主党議員)：

肥料業界団体や事業者から農業生産におけるプラスチック削減に取り組んでいると、(中略)直ちにこれを使わないようにするというのは難しいかもしれませんが徐々になくしていくという方向でこれからもしっかり取り組んで頂きたい…

安岡審議官(農水)：

プラスチックを使用した被覆肥料については、プラスチックの削減技術、さらには代替の代替技術の開発・普及、流出防止の対策をさらに進めるといったところで環境への影響の抑制を図ることが極めて重要…

小泉環境大臣：

いずれにしても、今日、環境省、水産庁がいますから、(中略)海洋プラスチックは水産庁という海を担当している部局だけでなく、(中略)環境省、農水省、連携合意していますから、その中でマルチとか一発肥料とか様々連携できるように今後も緊密に連携したい…

いよいよ 全農・肥安協・全複工 ロードマップ公表へ(2022.1.21)

被覆肥料メーカー、全農は、農水省などと協議を重ね、このロードマップを公表。2030年までの数年間に、2030年以降の対応を準備することとなった。また、国(農水省)は、県知事宛にこの取組を強化するよう通達してる。

緩効性肥料におけるプラスチック被膜殻の海洋流出防止に向けた取組方針【ロードマップ】

わたしたちは「2030年にはプラスチックを使用した被覆肥料に頼らない農業に。」を理想に掲げ、さらに努力してまいります。

取組方向	具体的な取組内容	2021-2022年	2023-2025年	2026年-2030年
1 農業者の皆さまへ、被膜殻が流れ出ると海洋プラスチックごみとなることをお伝えします。 ー被覆肥料にプラスチックが含まれていることの周知ー	(ア) 肥料の包装袋、肥料製品を紹介したパンフレットやチラシに、プラスチック使用製品である旨を記載	→	→	→
	(イ) QRコード表示などを通じて、流出防止対策などの必要な情報を提供	→	→	→
	(ウ) 肥料法の下、被覆原料が明らかになるよう原料表示の見直しを要請	→	→	→
2 農業者の皆さまへ、被膜殻の流出防止対策の徹底をお願いします。 ープラスチック被膜殻の農地からの流出抑制対策の実施ー	(ア) 被覆肥料の流出防止対策の周知	→	→	→
	(イ) より効果的な流出防止対策の検討	→	→	→
	(ウ) 農業生産現場における流出防止対策などの実施状況の把握	→	→	→
3 農業者の皆さまへ、代替となる施肥技術をご提案します。 ー代替技術の開発と普及によるプラスチックに頼らない農業の実現ー	(ア) 現行技術による代替施肥方法の実証と普及	→	→	→
	(イ) プラスチック使用量を削減した被覆肥料の普及と更なる削減に向けた開発	→	→	→
	(ウ) 生分解性樹脂など環境にやさしい素材を使用した被覆肥料の開発	→	→	→

まずは、流出防止のアプローチとユーザーへのプラ使用の周知

- ・各団体、メーカーはJA、販売店を通じ、一発肥料のプラ肥料殻流出防止の周知を開始。
- ・また、全農やいくつかの行政機関が流出防止方法の効果検証試験を行っている。
- ・更に、肥料にプラスチックが使用されていることをユーザーに周知するための表示義務がメーカーに課されることとなった。(2022年11月 ※猶予期間1年)



サンアグロの方針

《SCU[®]とサンウレア[®]の活用》

硫黄被覆尿素のSCUとBB肥料に活用可能なホルムチッソのサンウレアでこの問題に貢献したいと考えています。

《千代田化成のらくらく施肥 やドローン用肥料の活用》

一発肥料から省力元肥・追肥への移行もある。サンアグロは、千代田化成の流込み施肥やドローン肥料でもこの問題に貢献します。